～チェルノブイリとフクシマを結んで～

「救援関西」発足28周年の集い

2019年12月15日（日）1:30～4:30

大阪市立総合生涯学習センター（第１研修室）大阪駅前第２ビル５階

＊プログラム＊

1．＜事務局報告＞ 今年の取り組みを振り返り 来年に向けて
～チェルノブイリ被災地訪問報告も

2．＜お話し＞ 佐藤健太さん 福島県飯舘村 村議会議員

全村避難を強いられた村
～飯舘村の８年とこれから

＜休憩＞

3．＜歌＞アカリトバリさん～故郷を想い歌う～

4．質疑応答・討論

「救援関西」発足から２８年を迎えました。これまで一緒に歩んできて下さった皆さん、ほんとうにありがとうございます。チェルノブイリ被災地では33年経った今も放射能汚染が続き、人々はヒバクの危険、健康被害、生活困難に向き合い続けています。一方、事故から８年半を迎えたフクシマでは、廃炉作業、放射能汚染・廃棄物、健康・医療、賠償・生活再建、等々、課題が山積しています。しかし、政府は「風評払拭・リスクコミュニケーション戦略」を強め、汚染の残る地域にも「帰還ありき」の「復興政策」を押しつけるなど、事故被害をなかったことにしようとしています。

私たちはチェルノブイリとフクシマを結んで、事故被害者の人権と補償、健康と生活を守るために、そしてもうこれ以上原発事故を繰り返さないために活動を続けます。「発足の会」では、福島県飯舘村からゲストをお迎えし、全村避難を強いられた村の現状、村民の思いとこれから…についてお話をお聞きし、現状を知り、理解を深めたいと思います。また私たちの活動を振り返り、フクシマ10年・チェルノブイリ35年を見据えた今後の取り組みについても話し合いたいと思います。ぜひ、ご参加下さい！

福島からのゲスト： 佐藤健太さんのプロフィール

1982年飯舘村に生まれ育つ。2011年3月、原発事故直後から飯舘村の子どもや若者の早期避難を求め、Twitter等で発信を続けた。同年4月22日、「日本一美しい村」と言われた飯舘村は「計画的避難区域」に指定され全村避難となった。「愛する飯舘村を還せ」と思いを同じくする仲間とともに「負げねど飯舘！」を結成し、子どもをはじめ村民の長期的健康管理、補償対策等を求め、「健康生活手帳」（行動・健康の記録）作成などにも取り組んだ。

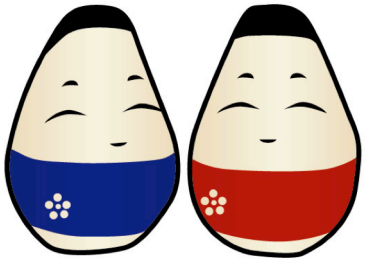
2017年3月末、飯舘村は一部「帰還困難区域」を残して避難解除となったが、未だ村民の75%以上が避難を続けている（2019年10月現在）。2017年9月、健太さんは「村民参加型の村作り」を訴え村会議員に立候補し２位当選。現在、妻と幼い娘二人と共に福島市に居住。飯舘村で父が創業した事業所を引き継ぎ、村外から毎日仕事に通っている。「村の一般会計は復興予算で事故前の４～５倍になったが、村民の合意形成で執行されていない。復興予算は帰還が前提で、村外の住民支援予算はほとんどない。」（今年3月のインタビュー記事より）飯舘村の若い世代として、幼い子を持つ親として、原発被害の続く故郷のこれからを見据え、試行錯誤を続けている。

主催：チェルノブイリ・ヒバクシャ救援

＜問合せ＞℡：072－253-4644(いのまた)0797-74-6091(たなか)e-mail:cherno-kansai@titan.ocn.ne.jp

この度、「アカリトバリ」さんたちが集いに来て下さることになりました！美しいく伸びやかなアカリさんの声にのせて故郷・福島への想いが胸に響く…オリジナル曲「山のうた」。その感動を皆さんと共有したいと出演を依頼したところ、急なお願いにもかかわらず快く引き受けていただきました。佐藤健太さんのお話を伺うとともに、しばしその歌声と演奏に浸り福島に想いを馳せたいと思います。

アカリトバリさんのプロフィール

福島県出身のアカリ（うた・三味線）と箕面出身のトバリ（ギター）の民謡ユニット。

東日本大震災・福島第一原発事故後、実家に届けた水と野菜のお礼にと祖父から三味線をもらった事がきっかけとなり、東北をはじめ各地の民謡と、故郷の福島に思いを馳せたオリジナル曲等を演奏。関西を中心に各地でライブ活動を行っている。